

原油価格高騰の背景 ～素材を取り巻く環境～

目次

- ・素材はなぜ値上がりするのか 1
- ・原油高騰によるフレートへの影響 2
- ・中東依存の特異な国・日本 3
- ・金属製品関係 4
- ・金属価格高騰の背景 5
- ・高炉の“市中スクラップ”購入量が前年比3割増 5
- ・木製パレット関係 6

素材はなぜ値上がりするのか

当社は物流機器のレンタルや販売、新規ビジネスとして拡販中の位置情報サービス（PHS電波を使った位置情報提供）やカーシェアリングを営んでいます。

レンタル商品はお客様のために在庫を抱えておかねばなりませんし、販売商品については仕入が発生します。カーシェアリングでは直接燃料費が関わってきます。

さて、ここ近年レンタル物件や販売の仕入コスト、燃料価格が年々値上がり続けてきており、木製パレット、プラスチックパレット、ネスティングラックやサポーターのスチール製品、ありとあらゆる商材が値上がってきているのです。当社だけの話であればそこまでなのですが、経済的な観点で言うと素材からの値上がり、いわゆる底上げ的な値上がりと言わざるを得ません。しかし、産業界からの観点でいくと、物を作るのにあたって原料となる素材は原点であり、素材が無くては産業が成り立ちません。現在ニューヨークの原油先物価格WTIや、中国の急激な発展などが新聞の経済欄をにぎわしていますが、これらが素材価格の高騰に深く関わっている状況かと思えます。この度のuprニュースは、各素材にスポットを当て原油価格高騰の背景を皆様にお伝えいたします。

（大阪営業所 須貝志郎、SCM本部 荒川信太郎）



原油高騰に伴いフレートへの影響も出てきているようである。コンテナ船、在来船においてもそれぞれ状況が異なる。果たしてどのような影響が起きてくるのだろうか。

中国を例に挙げてみるとコンテナ船においては基本的には積み地にてフレートを決めており、輸入の場合は日本は受け身の立場であることが多い。また、航路によってもフレートは異なり現状は高止まりしている。しかし、航路によっては参入している船会社が多ければ競争が激しくなる為フレートは下がる可能性もあるようだ。

また、中国航路に限った話ではないが、原油高騰に伴い今まで含めていたものを別項目にあげ負担してもらうようになっている。一つはBAF（燃費高騰又は低落があった場合の付加又は割引料金）、もう一つはFAF（船舶燃料の価格変動があった場合に一部を荷主に負担してもらうサーチャージ）がそうである。

また、最近では※EBSといったものもBAF、FAFとは別に新たに追加設定されている。在来船においては現状、鉄鉱石・穀物などの輸出が多く船が不足気味でありフレートも上がっている状況。やはり需給バランスが崩れているのが大きく影響しているのではないと思われる。現在では船会社の売り手市場と言われている。コンテナ船も積み地の空コンテナの在庫状況がフレートを左右することはあるようだ。

（大阪営業所 佐々木淳）



※EBS (Emergency Bunker Surcharge)

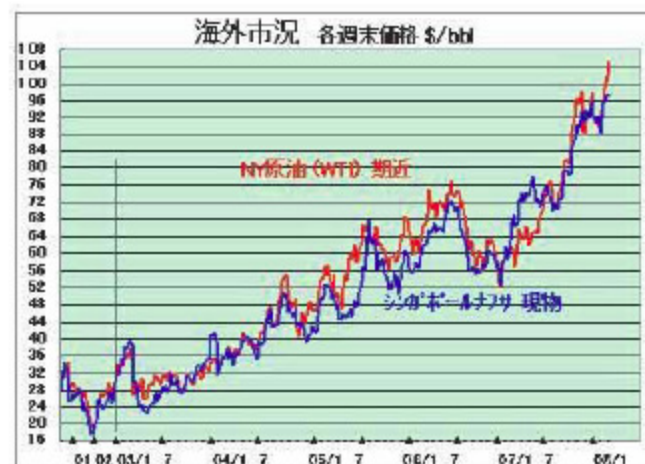
原油価格高騰に伴い船舶燃料費（重油）の高騰に対する措置として導入された割増料金のこと。

原油価格高騰の背景

どこまで原油は上がるのか

＜原油価格の現状＞ ～原油1バレル＝100ドル時代～
原油価格の世界的指標となるニューヨークでの原油先物相場が08年1月には1バレル(bbl)＝100.09ドル(1bbl＝158.98リットル)を記録し、2ヵ月後の3月には一時、1バレル＝110.20ドルを記録し過去最高値を更新しました。
(2008年3月12日現在)

その後も高止まりの傾向にあり、素材高騰など各方面へ影響を及ぼしています。私達の生活にも影響を及ぼす原油高騰ですが、その原因はどこにあるのでしょうか。



＜原油価格上昇の原因＞～なぜ価格が上がったのか～
・投機対象としての原油・・・

世界的な「金余り」の為、原油が金のように投機対象となっているのが原因のようです。

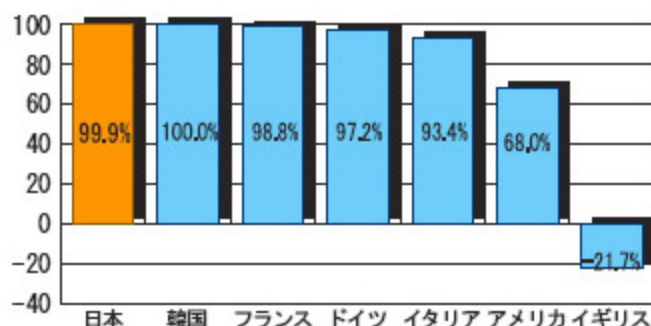
世界的規模で原油が投機対象となっているため、原油市場では先物を含めて実際の需要を超える取引が行



現在の日本の原油はほぼ100%輸入に依存している(図-1)。その中でも原油の世界生産量の約30%を占める中東地域から90%弱を輸入しているという中東依存度が非常に高い国である(図-2)。紛争や核問題など中東情勢を考えると、日本の供給構造は、中東依存度を軽減している他の先進国(アメリカ25%、イギリス4%、ドイツ7%、フランス41%、イタリア36%)と比較して安定供給の面で懸念がある。中東情勢の変化によっては、ある日突然原油輸入に支障が出るということが十分に起こり得る状況となっている。日本はこれまで原油安定供給のため、長年の課題である輸入先の多角化を図っている。第一次オイルショック前年の1972年には80%以上あった中東依存度は1987年には68%まで低下した。しかし、その後の中東依存度は再び上昇し1988年には第一次オイルショック時を上回る86%となり、1991年の湾岸戦争後も低下することはなかった。最近では、輸入先の多角化(ロシ

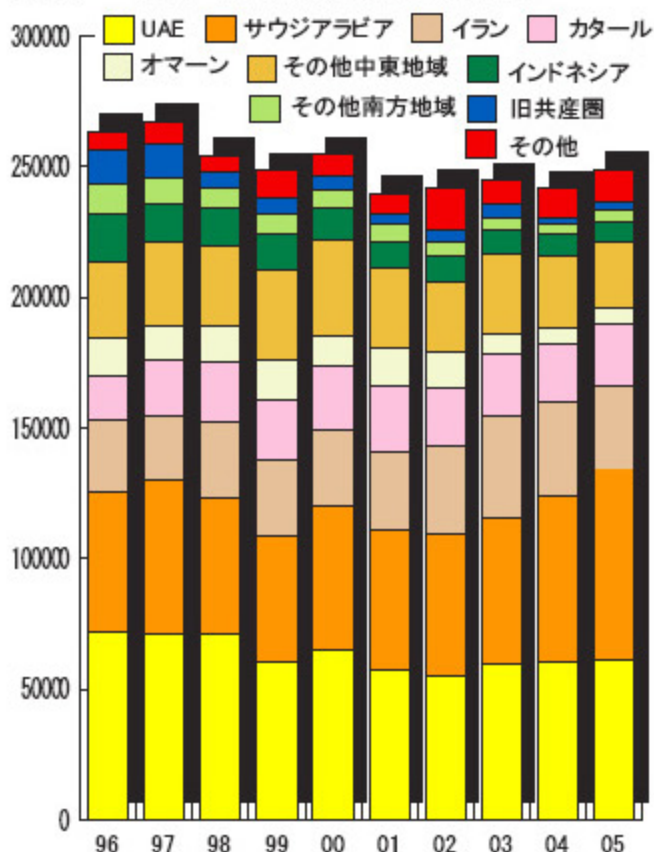
ア、アフリカ)により、2005年の90%をピークにして減少に転じているが、依然として依存度の大幅な低下は見込めないでいる。
(SCM本部 伊藤洋章)

(%) 図-1 主要国の石油輸入依存度(2005年)



(出典:北海道経済産業局)

(千kl) 図-2 我が国の国別原油輸入状況



(出典:北海道経済産業局)

(年度)

なわれるようになったのが価格上昇の原因になっています。また、アメリカのサブプライムローン問題により、多くの投機資金が石油先物取引市場に流入したために、原油高に発展したと言われています。

・増え続ける新興国の需要...

近年、BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)などが需要を増大させていることが影響しているといわれています。今まであまり原油を使っていなかった国の需要が拡大しているのです。特に中国は、既に日本を抜いて原油消費量が世界第二位になっています。先進国の消費に加えこれら新興国がそれ以上に消費をしていることが影響しています。

・ハリケーン(カトリナ)の被害...

2005年にアメリカ(ニューオリン



ズ州)を襲ったハリケーン・カトリナが油田施設や製油所を破壊。原油の安定供給に不安が広がり、価格に影響を及ぼしました。

・イラク戦争の爪跡...

イラク戦争時に油田施設やパイプラインへの攻撃により産油量が低迷してしまい、世界的な埋蔵量を持つイラクが安定供給することができなくなるという事態が起こったのです。

それにより、石油メジャー(Exxon, Mobil, Texaco,等)各社を中心に石油資源の確保が始まり、イラク戦争終結から急速に値上がりしました。中東情勢の不安定が原油価格に影響を与えていると言えるでしょう。(東京営業所 柴田浩和)



(プラスチック原材料の推移)

中東情勢の不安定化と加熱する中国経済等に起因する原油価格の上昇は、プラスチックパレット用原材料であるポリオレフィン（ポリプロピレン、ポリエチレン）の原材料となるナフサ価格の上昇につながり、右肩上がりの上昇を続けている。

①ナフサは石油を蒸留、精製して作る炭化水素の混合油で、これを合成してポリオレフィン（ポリプロピレン、ポリエチレン）が作られる。

②ナフサ価格/PP・PE価格連動は一般に、ナフサ価格が1,000円/KL上昇すればPP・PE価格は2円/kg上昇すると言

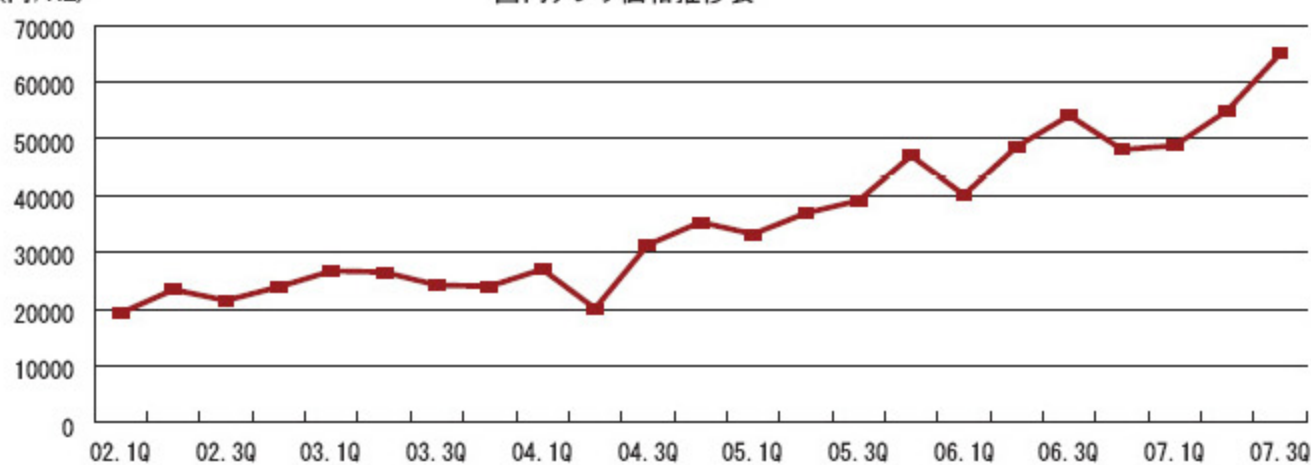
われている。

③2006年3月/2005年3月では140%の上昇が見られ、2007年3月/2006年3月では120%の値上げが見られる。

④大手総合商社の材料部門の推察によれば、ポリオレフィンはずでに2007年5月に9次値上げが実施され、さらに2007年7月には10次値上げ、2008年1月には11次値上げまで実施されている。プラスチックパレットの原材料事情は厳しさを増しており今後も予断をゆるさない状況が続くそうである。度重なる値上げにより木製パレット、ダンボールパレット等他の材料へのシフトが更に増加しそうである。

(円/KL)

国内ナフサ価格推移表



(出典: (社)日本パレット協会)

(四半期)

(プラスチックパレット製品価格実態)

プラスチックパレットにおいて、近年原材料高騰に対応した軽量化、リサイクル材料を用いた製品の増加、生産性の向上による原価上昇抑制の企業努力の結果、平均単価と出荷額は抑制されてきた。しかし原材料の高騰が続いてきた為、プラスチックパレットメーカーの企業努力もここへきて限界を越えており、輸出用パレット、リサイクル材のパレット、繰り返し使用する高品質のパレット等の市場が拡大する中で製品価格も値上がりしてきている。更に原材料の高騰が続けば、木製パレット等へのシフトも加速するかもしれない。

(中国のプラバレ事情)

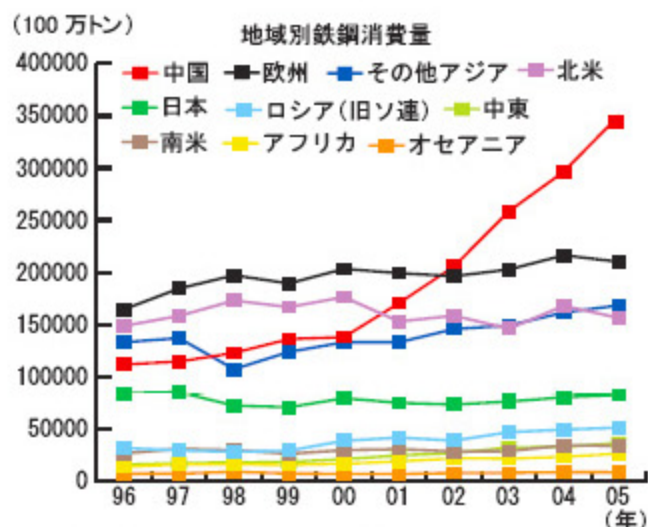
中国でも原油価格の上昇に端を発したナフサ高騰により、プラスチックパレットの価格も上昇している。中国ではパレットサイズは、1,200×1,000、1,200×800とユーロパレットサイズが主流だが、日系企業ではユーロ方式のシステムではなく、1,100×1,100、1,200×1,000のHDPE（種類が2つあり、HDPE 高密度ポリエチレン 密度が高く硬い、LDPE 低密度ポリエチレン 密度が低く軟らかい）が広く使われている。

日本から中国向けに輸出されたワンウェイプラスチックパレットは、現地業者が有価で買い取り、中古品として流通している。

(名古屋営業所 谷口隆)



先進工業国の市場の成熟化により、世界の粗鋼の生産量は1970年代から2000年にかけて緩やかな増加傾向を示すものの、景気循環により約7億トンを挟んで推移していた。しかし、中国、インド、ブラジルなど新興国の台頭により需要が急増し、2000年以降世界の粗鋼生産が急増している。特に、中国においては、数年前までは全世界の鉄鋼消費量の1割程度であったものが、その後年率20%



近く伸びたことから、2007年にはほぼ世界消費量の3割強に達する。これは、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博に向けての国家的イベントの開催による建設ラッシュで需要が増加していることが要因である。一方、算出できる鉄鉱石の量には限りがあり、この需要の急増に対応できず、鉄鋼石が世界的に品薄となったことにより、鉄鋼価格を押し上げている。



(北京オリンピックのメインスタジアム 愛称「鳥の巣」
写真提供：共同通信社
(総務本部 池田勝明)

高炉の”市中スクラップ”購入量が前年比3割増

鉄スクラップ変動の理由

2007年の国内高炉メーカーの市中鉄スクラップ*購入量が前年比32.5%増の349万5千トン(推定)となりそうで、1997年以降では初めて年間購入量が300万トンを超えるまでに増加した。

粗鋼増産への対応とCO₂削減効果を狙って、高炉メーカーの市中鉄スクラップ手当が増加し、鉄スクラップ相場の高値推移の一因となった。最も購入量の多い新日本製鐵㈱の購入量は前年比27.1%増の282万9千トン(推定)となる見通しだ。



また、需要の増加に伴い中間処理業者の買取価格も以前に比べ上昇しているが、中間処理業者を取材したところ鉄スクラップの買取価格は需給のバランスによって日々変動しており、2006年10～2007年11月の期間では1ヶ月に6円/kg下落した月もあり、価格の変動差が激しい事がわかった。

* 市中スクラップ…建築物の鉄鋼廃材、廃車、廃船、電化製品の廃品や、製造工場での鉄くずなど
(福岡営業所 阿部昌宏)



インドネシア新政府発足(2004年9月)以降不法伐採の取り締まり強化により木材の流通量が激減しており、正規伐採木の流通も限られており価格が高騰してきております。2006年～2007年だけで見ても材料費で30%の値上がりで、現地打立完成品パレットで見ると約20%の値上がりをしております。



2007年6月インドネシアにて当社社員による植林

また、輸入船運賃についても2004年だけでも約30%の値上げ、さらに2005年1月より既に約17%の値上げが実施され、今後も原油の値上がりによりコスト増は避けられない状況です。但し、植林木の流通も出てきており南洋材+植林木(南洋材)の組み合わせでコストを抑える事も検討しております。

(山口営業所 判野昌司)



伐採された南洋材の丸太

編集メンバー



伊藤洋章

荒川信太郎

柴田浩和



谷口隆

須貝志郎

佐々木淳



判野昌司

池田勝明

阿部昌宏



小澤良真

原油価格高騰の影響は、様々な分野に波及し始め、私たちの普段の生活においても無視できなくなってきました。今号では改めて、物流における原油価格高騰の影響について取り上げました。

(位置情報事業部 小澤良真)



選べるパレット 探せるパレット
レンタル/パレットの未来を切り拓く

ユーピーアール株式会社

■東京本社 〒105-0004 東京都港区新橋6-9-4
フロンテック新橋スタジオビル3F

Tel: (03) 3435-9141 Fax: (03) 3435-9149

■宇部本社 〒759-0134 山口県宇部市善和川東541-12

Tel: (0836) 62-1112 Fax: (0836) 62-1417

■営業所 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・
山口・福岡

UPR Corporation URL: <http://www.upr-net.co.jp>